まだまだあります!

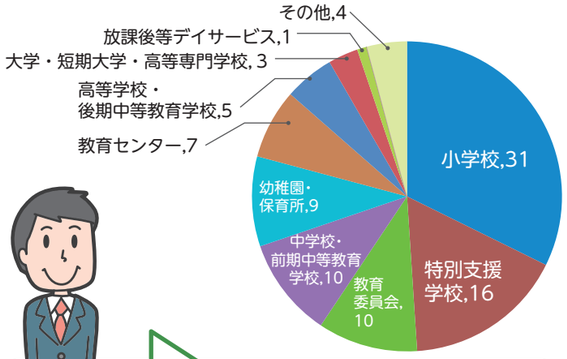
【その他の活用例】(研修プログラム名のみ)

＜教育委員会＞
- 特別支援教育入門講座
- 寄宿舎指導員研修
- 言語障害通級指導教室新任者研修
- 特別支援教育コーディネーター研修
- 特別支援教育臨時的任用教員研修

＜学校・園＞
- 要支援児担当職員研修
- ２年以上経験職員対象研修
- 視覚障がい教育の専門性　　など

ご登録いただいています!

団体利用登録96団体（2020.11.16現在）



教育委員会では、年次研修、専門研修などのプログラムごとに、NISE学びラボのコンテンツを組み合わせた研修を企画しています。もちろん、小、中、高等学校、特別支援学校での校内研修でも活用されています。

Q&A

登録の条件は？

必要とする資格等はありません。
教育委員会、教育センターや、幼稚園・小・中・高等学校・特別支援学校等の各学校での活用はもちろん、福祉施設、医療機関、民間企業等での研修でもご活用ください。

営利目的の利用は？

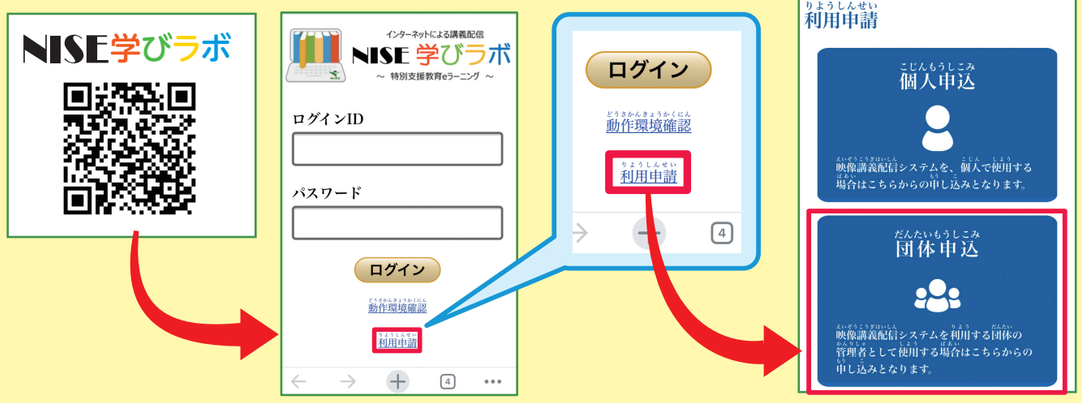
営利目的による利用は禁止しています。個人登録の場合も同様です。
コンテンツ及び講義資料等をSNS等の各種媒体に複製、翻訳、変形、転載、展示等することは、厳に慎んでください。

操作方法は？

研修管理者マニュアルを用意してあります。ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。

手続きは簡単！

QRコードからNISE学びラボのログインページへ！



NISE学びラボログインページ下側の「利用申請」をクリックして利用規約を確認！

「団体申込」を押して、利用者の情報を入力したら、あとは許可の連絡を待つだけ！

お問い合わせ先：NISE学びラボ担当　a-manabilabo@nise.go.jp

インターネットによる講義配信

NISE学びラボ

～特別支援教育eラーニング～

団体登録で教員の資質向上を目指しませんか?

オンライン型研修の企画・運営が簡単にしかも無料で！

プログラムⅠ(年次研修)
- コンテンツA
- コンテンツB

プログラムⅡ(ミドルリーダー)
- コンテンツC
- コンテンツB
- コンテンツA

プログラムⅢ(管理職)
- コンテンツD
- コンテンツE

Check1 ☑	**•研修プログラムの作成が可能に!** 目的に応じてコンテンツを組み合わせて、独自の研修プログラムを作成することができます
Check2 ☑	**•受講者の視聴状況の確認が可能に!** 作成した研修プログラムごとに、受講者の視聴状況を把握することができます
Check3 ☑	**•視聴修了証明書の発行が可能に!** 研修プログラムの視聴を修了した受講者に対し、視聴修了証明書を発行することができます
Check4 ☑	**•受講者への「お知らせ」が可能に!** 「お知らせ」機能を活用して受講者への通知を掲示したり、メールを配信したりすることができます

NISE

独立行政法人 **国立特別支援教育総合研究所**

NISE学びラボ

https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online

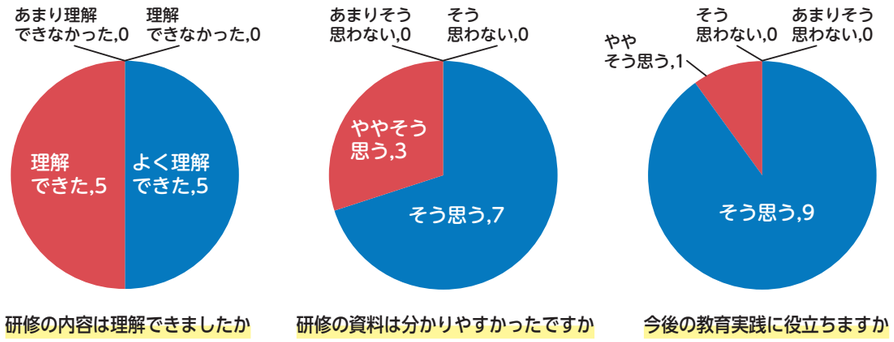
NISE学びラボ　例えばこんなふうに　ご活用いただいています！

都道府県教育委員会では　初任者研修に！

参加者は？	小、中学校教諭等の初任者
ねらいは？	通常の学級の担任である先生方に特別支援教育の基礎を押さえてもらえるような研修プログラムを設定しました。
視聴期間は？	２ヶ月間
活用した研修プログラム、コンテンツは？	「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築」 「学校における気づきと実態把握」 「発達障害のある子どもの通常の学級における支援」
取組は？	参加者には、２ヶ月間で三つのコンテンツ視聴をお願いしました。その間、研修センターはプログラムの編成や研修の進捗管理を担当しました。期間終了間際で未受講の先生を把握し、受講を促しました。
主催者の感想	参加者には、特別支援教育の基礎を押さえてもらうことができました。運営面では、すでに整理されたコンテンツが活用できるため、研修の企画がしやすかったです。コンテンツを組み合わせて研修プログラムを作成できるということでは、研修管理者にとって　自由度が高く、扱いやすかったです。

市町村教育委員会では　特別支援学級の新担任に！

参加者は？	小、中学校知的障害特別支援学級の新担任
ねらいは？	新担任の先生方には、知的障害に対する正しい理解を深め、児童生徒の背景を丁寧に探って授業づくりに臨んでほしいと考え、NISE 学びラボを活用しました。
視聴期間は？	１ヶ月間
活用した研修プログラム、コンテンツは？	「知的障害の理解と教育的対応の基本」を視聴必須とし、それ以外のコンテンツ視聴も勧めました。
取組は？	教育委員会が主催する研修プログラムのうち、「特別支援教育新任担当教員研修（知的障害特別支援学級担任）」の一部で活用しました。プログラムは、はじめに実態把握に関するコンテンツを各自で視聴し、その後、豊かな指導経験を有する地域の特別支援学級担任の先生の授業づくりや実践に関する資料をもとに研修するという流れでした。
主催者の感想	知的障害を正しく理解することの大切さについて肯定的に回答している教職員が多く見られました。



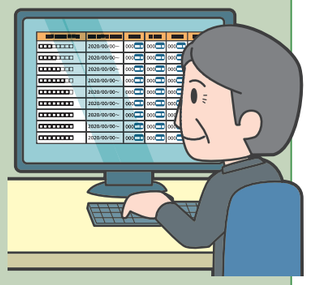
小、中学校知的障害特別支援学級新担任研修後のアンケート結果

受講者の声

特別支援学校では　これから経験を積まれる方に！

参加者は？	非常勤の先生を含めた全教職員
ねらいは？	主な対象は、特別支援学校教諭免許状の取得がこれからの先生、初めて特別支援学校に来られた先生でした。特別支援教育の基礎的な学びとなるように校内研修を設定しました。また、経験のある先生の知識の再確認となるように、学校研究のテーマに関連したコンテンツも選んでいきました。
視聴期間は？	１年間
活用した研修プログラム、コンテンツは？	「特別支援教育における教材・教具の活用」 「特別支援教育におけるＩＣＴの活用」 「知的障害教育における教育課程の編成」 「特別支援教育におけるカウンセリング技法」 「各教科等における指導の工夫」 「特性に応じた指導」 「個別の指導計画の作成と活用」　　など
取組は？	日々更新される情報を提供するため、またそれぞれが知識を得てスキルアップするために、知的障害、発達障害のコンテンツを中心に閲覧していただきました。個人がそれぞれの空いている時間で学ぶことで、負担なく研修ができています。
主催者の感想	興味をもって視聴してくださった先生からは、「よかったよ」「分かりやすかった」などの感想をいただいています。特別支援教育をこれから学ぼうとする先生にとって、よい学習のきっかけを作ることができました。各教科の具体的な取組の様子や、教材、支援方法などが学部ごとにあると、さらにうれしいです。

高等学校では　通級による指導の新担当者に！

参加者は？	校長及び、校内で通級指導を担当する先生
ねらいは？	通級による指導の担当者の資質向上です。背景には、本校に通級指導教室が設置されたことがありました。
視聴期間は？	３ヶ月間
活用した研修プログラム、コンテンツは？	研修プログラム「06．通級による指導の担当者になったら」 「「通級による指導」の成立とその意義」 「多様な学びの場（２）小学校・中学校等」 「個別の指導計画の作成と活用」 「特別支援教育におけるカウンセリング技法」 「特別支援教育コーディネーター - 役割と活動を中心に -」 「発達障害のある子どもの通級による指導」　　など 
取組は？	日常業務の空き時間を活用しながら、自主研修という形で進めました。
主催者の感想	システム内で、参加者ごとの視聴状況をつかみ、研修の進捗を把握できました。今後は、通級による指導の担当者に限らず、全教職員を対象とした研修の一つとしても、NISE 学びラボを活用できたらと考えています。

※事例をご提供いただいた機関・学校：宮崎県教育研修センター、倉敷市教育委員会倉敷教育センター、滋賀大学教育学部附属特別支援学校、新潟県立高田南城高等学校　など